

医学部・附属2病院等の再整備の方向性

大学病院としての機能を1病院に集約

○全市的な医療体制の充実化や、将来の医療需要の変化、現行2病院の診療圏の重複等を踏まえ、設備投資・人員配置の重複、臨床実習の分散といった課題を抜本的に解決するため、大学病院としての機能を1病院に集約します。

新病院の病床数は1,000床程度を基本

- 今後、供給過剰が見込まれる高度急性期病床数を見直し、現状よりスペースも確保することで、患者の利便性、医療従事者の働きやすさを向上させます。
- 病床数は、有識者・医療関係団体の意見、医療需要等を踏まえ、経営的な視点をもって、今後策定する再整備基本計画の中で更に精査していきます。予期せぬ危機対応も可能とする運営体制の確保に留意します。

診療・教育・研究機能を一体として整備

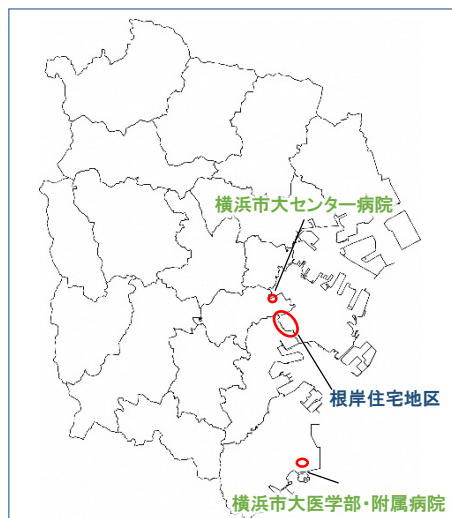
○大学病院は医学研究を臨床に転換することが基本であることから、新たな附属病院は診療・教育・研究機能を一体として整備することを基本とします。

根岸住宅地区跡地を最有力候補地として検討

○返還に向けた具体的な手続きが進んでいる根岸住宅地区跡地を再整備の最有力候補地として具体的に検討を進めていきます。

<選定した理由>

- 現行地(福浦・浦舟)はスペース的な制約や敷地内で段階的に建て替えることの病院運用上のリスク等により現実的な選択肢とはいえない。
- 人口が増加している臨海部、北部、中心部の医療需要の増が見込まれることや、高度救命救急センター機能を効果的に発揮する観点等から市全域からのアクセス性が高い市中心部が望ましい。
- 診療・教育・研究機能を一体として整備することが可能な一定の広さを有する市有地等は見当たらない。
- 根岸住宅地区の跡地利用の考え方に合致する。

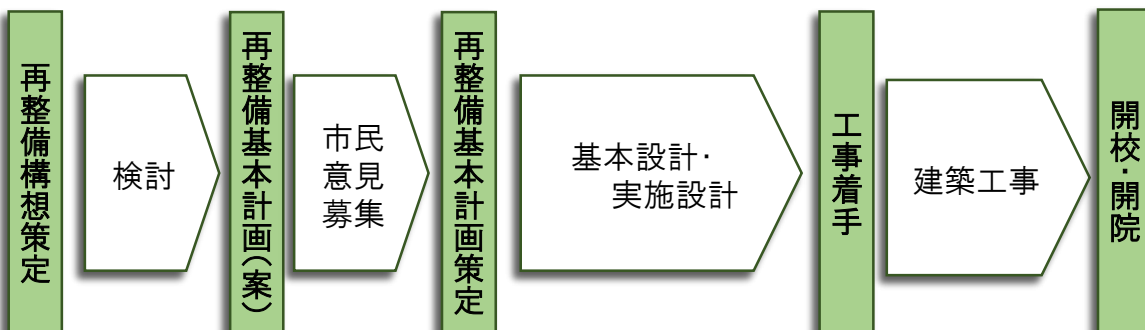


現行2病院の跡利用について

○現在の2病院等の跡地には、近隣エリアで将来求められる医療・福祉ニーズを踏まえながら、必要な機能を確保することを基本として検討を進めていきます。

スケジュール

10～15年程度（予定）



横浜市立大学医学部・附属2病院等の再整備構想（概要）

横浜市立大学は県内唯一の医学部を擁する公立大学として、また、市民の健康と命を支える「最後の砦」として、医療人材の育成・輩出、高度で先進的な医療の提供など、様々な役割を果たしてきました。

横浜市立大学医学部・附属2病院等は、建物・施設の竣工から約30年が経過し、狭あい化・老朽化等に伴い、学生教育や医療提供等に支障が生じていることから、こうした課題の抜本的な解決、医療を取り巻く環境の変化へ適切に対応し、引き続き、市民の健康と命を支える「最後の砦」の存在としてあり続けるため、再整備の検討を進めています。

このたび、今後、再整備の具体的な検討を進めていくうえで、その柱となるコンセプトや、方向性(運営体制、病床規模、対象施設、候補地等)の基本的な考え方をまとめた「横浜市立大学医学部・附属2病院等の再整備構想」を策定しました。

今後、再整備構想案の市民意見募集でいただいたご意見等をふまえ、再整備に係る最有力候補地として位置づけた「根岸住宅地区」の返還動向を見極めながら、より詳細な検討を進め、「医学部・附属2病院等再整備基本計画」をまとめていきます。

横浜市立大学医学部・横浜市立大学附属病院(金沢区)

敷地面積		94,470㎡	
建物規模等	竣工	建築面積	延床面積
教育実習棟、福利厚生棟及びRIセンター等	S61他	7,854㎡	14,674㎡
基礎研究棟	S61	1,684㎡	9,262㎡
臨床研究棟	S61	1,753㎡	10,124㎡
看護教育研究棟	H6	1,837㎡	9,291㎡
附属病院 (674床)	H3	10,471㎡	62,014㎡
先端医学科学研究センター	H24・H27	859㎡	3,409㎡
エネルギーセンター	S61	1,917㎡	3,960㎡
合計		26,375㎡	112,734㎡



横浜市立大学附属市民総合医療センター(センター病院) (南区)

敷地面積		18,826㎡	
建物規模等	竣工	建築面積	延床面積
本館 (679床)	H11	5,222㎡	57,557㎡
救急棟 (47床)	H1	2,186㎡	11,798㎡
研究棟	H3	485㎡	3,181㎡
駐車場棟	H11	1,718㎡	10,759㎡
合計		9,611㎡	83,294㎡



医学部・附属2病院が果たしてきた主な役割

■横浜市立大学医学部・附属病院（金沢区福浦）

- ・市内唯一の特定機能病院として高度で先進的な医療の提供
- ・優秀な医師・看護師の人材育成・輩出
- ・民間の医療機関では必ずしも提供されない恐れがある医療の提供
- ・臨床の現場につなげる高度な医学研究 等

■横浜市立大学附属市民総合医療センター（南区浦舟町）

- ・高度救命救急センターを擁する病院として、本市全体の救急医療の中心的役割
- ・地域医療支援病院として地域医療の質の向上や地域医療連携の推進 等

医学部・附属2病院等の再整備の必要性

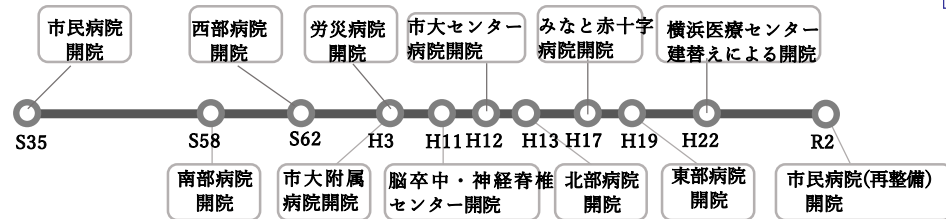
将来の医療需要と必要病床数

○今後、需要が増大する回復期・慢性期機能の病床の大幅な不足が見込まれる一方、大学病院で主に対象とする高度急性期・急性期機能の病床については充足している状況です。

医療体制の充実

○横浜市では、市立・市大病院が立地し、医療提供体制が比較的充実していた市中央部を除いた郊外部(6方面)に、地域中核病院の整備を計画しました。

○地域中核病院の整備は平成22年の横浜医療センターの開院により完了しました。
さらに、令和元年には市民病院の再整備が完了するなど、本市の医療提供体制の充実化が図られてきています。



現状と課題

- 医学部等の主要施設は建設から30年以上が経過しており、施設の狭あい化・老朽化に伴う課題を抱えています。
- 学生の定員増に伴う各施設の拡張を行っていないため、スペース・座席数が不足しているとともに、デジタルコンテンツの活用等、時代に合わせた教育を行う設備が十分ではありません。
- キャンパスと隣接している附属病院の病床数が学生定員に対して不足しているため、臨床実習の分散が生じており、学生に大きな負担が生じています。

- 附属病院とセンター病院救急棟は竣工から約30年が経過し、狭あい化・老朽化が大きな課題となっており、このままでは求められる機能を果たし切れなくなります。附属病院では一部の病室面積が医療法上既存不適格となっているなど、病院利用者に負担が生じています。
- 構造・スペース的な制約により、機器の導入が困難なケースが発生しているなど、大学病院としての機能低下が懸念されます。
- 昨今、自然災害の甚大化のリスクが高まっており、災害拠点病院としての機能が十分に発揮するためにも、より災害に強い地域での立地が望まれます。

教育面 診療面
研究面 経営面

- 施設の狭あい化等に伴い、国の大型研究プロジェクトや、産学連携研究の推進に支障が生じています。
- 同規模2病院体制により、1つの病院としての必要な症例数の確保が難しい状態となっており、目指している臨床研究中核病院の指定に向けた課題の1つとなっています。

- 現行2病院の診療圏の重複が見られる中、同規模2病院体制は設備投資・管理部門の重複が発生するなど、今後、人口減少社会を迎える中で経営上の課題となっています。
- 大学病院としての機能を最大限発揮するためにも地域医療機関との役割分担を踏まえた、持続可能な運営体制が必要です。

医学部・附属2病院等の再整備のコンセプト

最先端の教育・世界レベルの研究・高度で先進的な診療が一体となり、横浜の医療を牽引する総合医療拠点を目指す

